

119

寛永諸家譜

藤原氏癸亥五冊之内六
交流

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數		186 (119)
函號	特	76 1





右田
苜田
河田

難波田
細田
柴田

權田
田口
重田

稲田
杵田
持田

指田
奥田

寛永諸家系圖傳

藤原氏 癸六

文流

右田

● 重則

吉備守 生公素濃

豊后秀吉

天正七年八月播州三木乃我場

淺草文庫

といて死し歳辛一 法石道乾
道号为天

重勝

後五位下 兵部少将 生国同前
天正十八年小田原陣の時秀吉を
志し
文禄元年朝野陣を以て心腹
陣の時 衆ありて勢利松坂乃城

を守来地三万五千石と願じ
秀吉又小田原陣の時 雲坂城
より同必津城へ又百餘の援兵を
く又敵軍と挑戦を志し
抽かりかへり

東照大権現二万石とく又し後り
初命五弟又とるし願ふ

同八年

大権現乃命とけりしり江州

作和山城普請とけしむ

月十一年江戸石垣普請とけしむ

同年六月十六日小卒し、年七歳

法名道運 乃号天閑寺号 因泰

は時重恒指しけり、かたが地し

大権現重勝が才重作し命し重恒

相代て重勝が家督とけしむ

うまふ

重忠

半右衛門尉 生国同家

秀吉をりしり、秀頼より此ふ

元和元年乙未月七日大坂陣り、

死し、年十八歳 法名玄霜 道号

右剣

重直

共九郎 生国山城

右衛門尉

將軍家より此へより

重政

共九郎 生田茂茂

將軍家よりつとて

領地五百石とつとて

重弘

辛三郎 揚州より内

寛永三年三月十一日

將軍家より湯

同日年法書院

同日七年法書院の番とつとて

今御名宛番とつとて

重作

後又位下 大膳大吏 生田茂茂

東照大権現

法書院殿より此へより

享長十二年 後府乃御城普徳
とほむし

日十三年 中村伯耆守卒
伯州 米子乃城
とほむし

日十七年

大権現の位とけり
尾州
那古屋の城普徳とほむし
日十九年 江戸御西丸乃普徳と

とほむし

大坂安房と御博よ佐奉

元和三年 稲繁淡路守城州

田丸とちりちりてりら田丸の
城番とほむし

日めき石列濱田にいりて御地

五萬石をうけり又丹波とて

又平石とちりちり

日九年 又月

月九年

將軍家より白銀五百枚とらり

日十年堀尾山城守卒し

とも二宮列 松江の城番とつ

日十二年江戸石垣善徳と勤

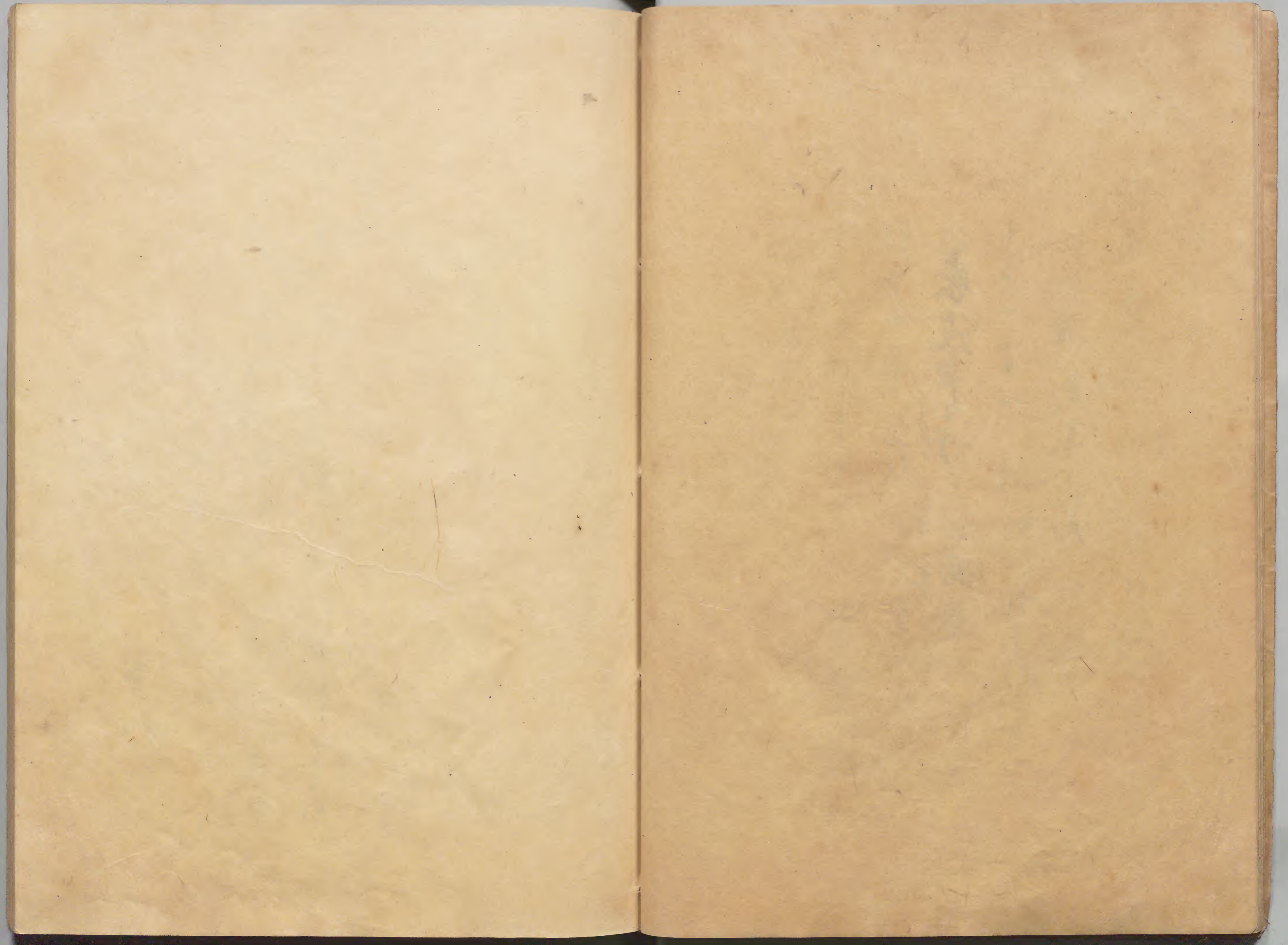
日十四年衣掛を授かる卒

してのらまゝ二宮列 松江乃城

友とけと

家紋

丸門三列兩



蔭田

● 廣光

後文佐下 相模与尾刈織津と生所

とつた織田信長との麾下にあり

そつらとて後秀吉とつふ

文禄元年二月廿二日卒以六十

三歳 法名 宗右

長廣 ながひろ

数る助 かずまけ

生國孫津

大権現

右通院殿

將軍家より侍人多し

廣則 ひろのり

久右衛門

生國孫 いこう

將軍家より侍人少し

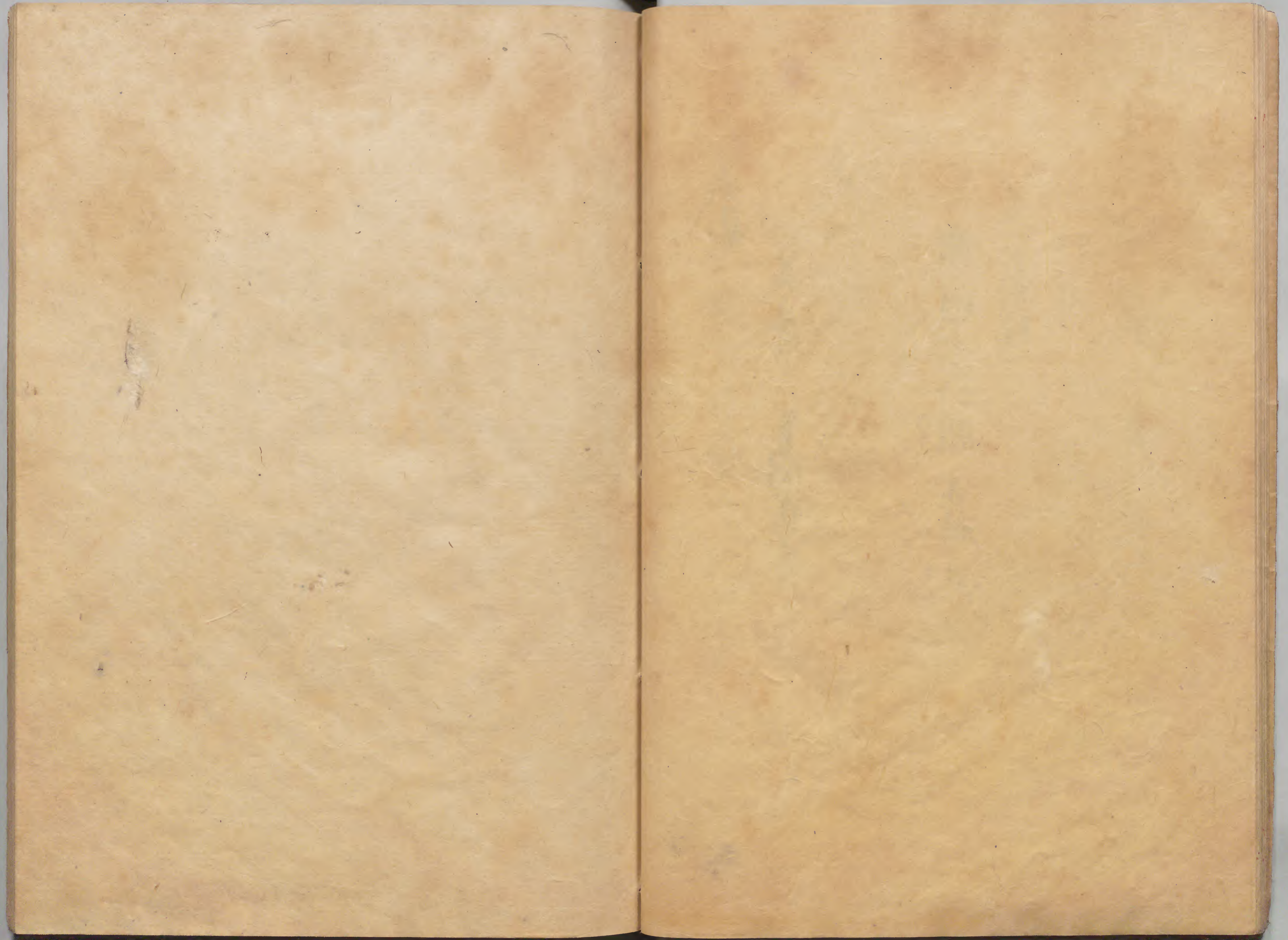
定則 さだのり

八十郎

生國孫

家紋

八曜子持筋 やくちもち



● 恭親

河田

伯耆守 生國

上杉謙信をらびて景虎とていふ

と正六年信州と河田合戦の時

先手とわたりて軍太旗をけし

ら進しよらて景虎感状とさつ

比治田の城とあけく小原氏政も

まゝに保家書とあつる

上州新田より丸山よとるまでを

りまゆらとよきいげりともとめづ

その他と焼くもふうにをいす

保信威をささげ

同十八年死す

東照大権現よはく人をそつて

文禄二年六十三歳して死す

政親

物嘉 生國と野

文禄元年十歳の時死す

大権現

名徳院殿よはく人をそつて

関原陣大坂あまの法陣よはく

そのら

將軍家よはく人をそつて

寛永十三年四月廿七歳少して死す

親重ちかひ

半助 生國なまくに長彦

元和三年十月廿歳の時ふ然と死す

將軍家につくええまつり御小姓ごこせい

継乃つぐの番とけと心

寛永十五年より大御番おほごばんの継从ついで

史し方かた記ぎ

家紋 菴あまの内うち木き札ふだ



川田

● 菓

六郎ろ菓

女に國こ三さん河が

法は名な鉄てつ牛ぎゅう

清せい康こう君くんくくははふふるる

菓

六郎ろ菓

生せい國こく同どう家か

東照大権現より侍之りて

交長三年九月十七日一死

法名 閑心

貞次

六郎某の 生母曰前

大権現

名法院教より侍之りて

寛永元年二月六日六十三歳

一て死す 法名 増味

貞則

若き時 生國氏孫

元和三年十一月十日より

將軍家より侍之りて

寛永六年九月八日小十人の継次

也

家級

波なみノ葉はノ葉は

鄂波田なまがは

● 憲のり重しげ

彈がら正ちやう

中な國くに氏し系けい

上うへ枚まい後ご領りやうしつしつ人ひと氏し列りやく松しょう山さんのの城じやう代だいとと行ぎやう

憲のり次つぎ

因い幡はた氏し列りやく松しょう山さんとと生なま保ぼ

上田暗礮^{カクシキ}とつふ暗礮^{カクシキ}没落^{ボツラク}の夜
城^{シロ}川^{カハ}洗^シ滅^{メツ}といひて死^シと

憲利^{のり}

若^{わか}尾^お射^し生^{せい}國^{こく}氏^し秀^{しゅう}

文^{ぶん}祿^{ろく}元^{げん}年^{ねん}免^{めん}死^しと

東^{とう}照^{しょう}大^{だい}権^{けん}現^{げん}と福^{ふく}とそつりて

名^な法^{ぽう}院^{いん}殿^{でん}

将^{しょう}軍^{ぐん}家^けと法^{ぽう}久^{きう}とそつりて

寛^{かん}永^{えい}十^{じゅう}二^に年^{ねん}と死^しと六^{ろく}十^{じゅう}二^に歳^{さい}

憲名^{のり}

大^{だい}師^し兵^{へい}清^{せい}射^し 生^{せい}國^{こく}氏^し家^け

寛^{かん}永^{えい}二^に年^{ねん}十^{じゅう}月^{げつ}

将^{しょう}軍^{ぐん}家^けと法^{ぽう}久^{きう}とそつりて

安^{あん}信^{しん}揚^{やう}津^{しん}吉^{きち}が紐^{ひも}と

大^{だい}師^し家^けと法^{ぽう}久^{きう}と

同^{どう}十^{じゅう}年^{ねん}會^{かい}邑^{いふ}と

憲長

長尾憲尉 生國日記

寛永十五年

將軍家へ福へなり亡父憲利が

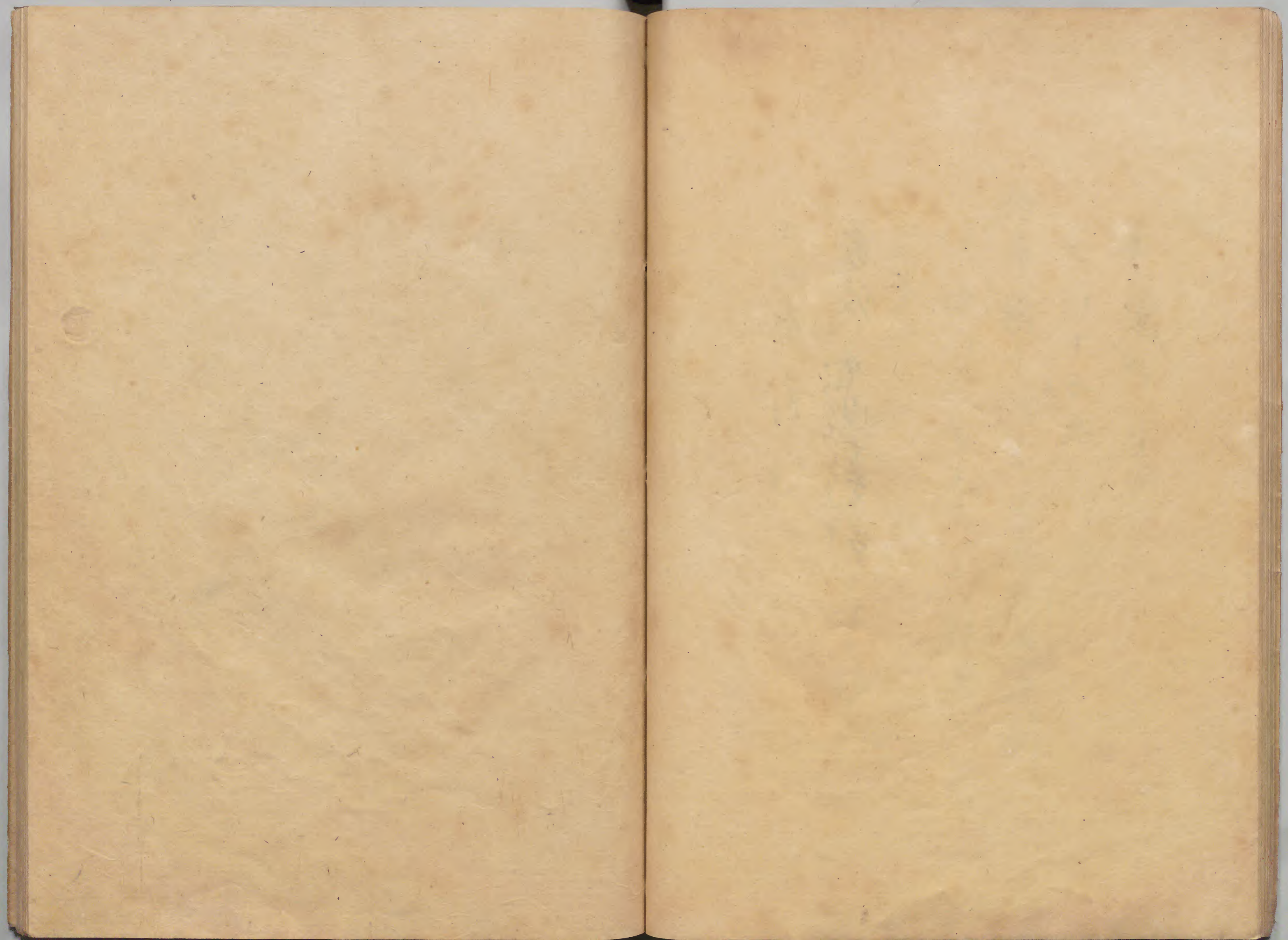
傳禄の由りをして糧米とつら

きとせふ

月十六年安信持は守が継り別て

大御番とせしむ

家紋 丸内十字字



● 康勝アキカ

細田アキカ

加右衛門尉 生國アキカ越前

淡松アキカよりして

東照大権現を拜アキカしそそりつる

天正十八年關東アキカ御入坐アキカのとき流アキカす

とて終アキカに死アキカす

康政

清菴

生國尾張

大控現

元祿八年正月二十三日丑十三家

少々

康次

清菴

生國長菴

寛永七十年

台徳院殿

將軍家

費利

五島右衛門尉 生國同家

寛永十二年十一月廿九日

將軍家

家紋

藤丸ふじのまるのしらしらしら

卍

重時しげときの重時しげとき

重時しげときの重時しげとき

同十八年小田原陣おだわらじん乃なりととき蓮池れんぢ討死うちくし法名ほふな乃なり親おや

重時しげとき

物右衛門ものゑもん 法名ほふな日秋ひあき 生國なまくに同前どうぜん

正時ただとき討死うちくしのの法名ほふな乃なりととき蓮池れんぢ討死うちくし

甲州こうしゅうより討死うちくしのの法名ほふな乃なりととき蓮池れんぢ討死うちくし

と討死うちくしのの法名ほふな乃なりととき蓮池れんぢ討死うちくし

と討死うちくしのの法名ほふな乃なりととき蓮池れんぢ討死うちくし

重時しげとき

小笠原おがさわら 生國なまくに同前どうぜん

名法なほつ院いん敷しき

將軍しやうぐん家けより討死うちくしのの法名ほふな乃なりととき蓮池れんぢ討死うちくし

寛永かんゑい十七年じゅうしちねん二月にがつより討死うちくしのの法名ほふな乃なりととき蓮池れんぢ討死うちくし

成時 なりとき

小長勝

生必長茂 いさ

重時 しげとき

姪 まへ

の子 こ たり たり ぬ ぬ が が 接 つ 入 い り

む む こ こ ぬ ぬ たり たり て て 進 しん 治 じ と と け け ぐ

家紋

藤丸 ふじのまる 内小

卍

柴田あしば

● 正重ただしげ

之膳あかひん 生國まに 道江みちえ

東照大権現

台迹院殿たいせきいん 之の 所ところ 之の 所ところ

延長二年十一月えんちやうにふたにねんじゅういちがつ 十一じゅういち

又また 柴しば 法名ほふな 月つき 永なが

正表 まぎらう

侍右衛門尉 えん

生田遠江 おん

大権現

名徳院殿

將軍家より所之人を之より

寛永十七年六十歳より死す

法名真雲 えん

正信 まぎらふ

四郎左衛門尉

生田長茂 おん

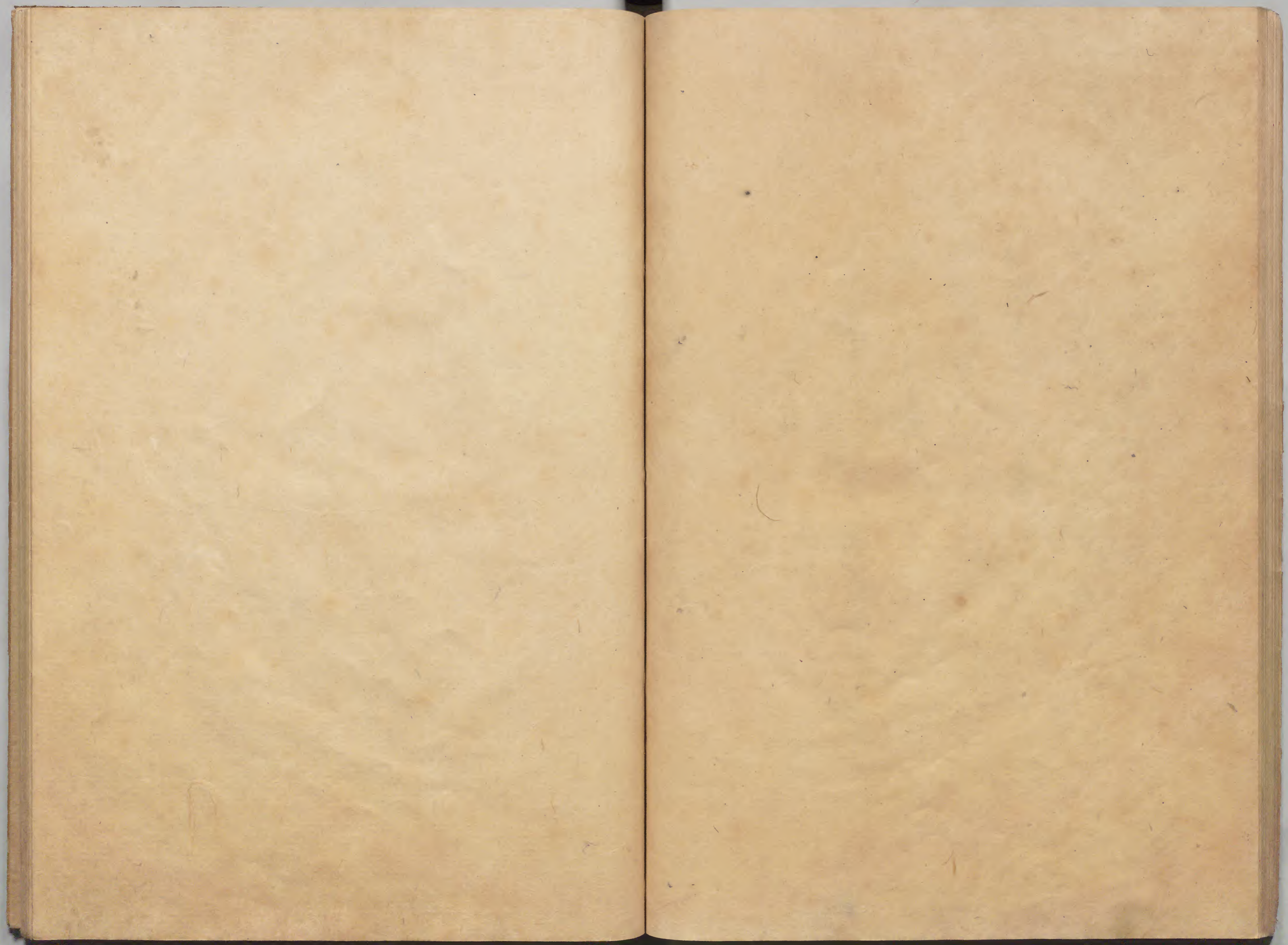
寛永六年

將軍家とおしりてまつ

同七年大法番と所心 おん

家紋

まぎらう 丸門下菴丸 まぎらう



● 泰長

檀田

藏部依

生國遠江

永祿十二年幸外堀江乃城

ありとこふ本領をすまはる言ふ

御書ありにいまり然るは

東照大権現と云はるは

天正十八年小田原滅亡の役 始と
明かり御鉄炮足利十人とあつる
乃ら 釣命つりのみことより江戸を過る
沙代さしろ友ともとけりこと
文禄四年七十日家少にて死す
法名 常薫

恭清 きよひら

小次郎 生國同前

永禄十二年父恭長きよながに始り
終り

大権現おほごんげんより始り
文禄四年三十八歳にて死す
法名 常儀

恭成 きよなり

平大丈 生國同前
名徳院殿

將軍家へはけえりてり伏見
 乃御番ははじ又海邊山城を
 よらりて御番とほいしは内籠
 とくえりてり
 え和元年大坂陣のときも本
 直多正が継いで居り伏見とほいし
 御陣のときも又領地とくえりてり
 寛永七年十月十七日家へはけえりてり
 清分

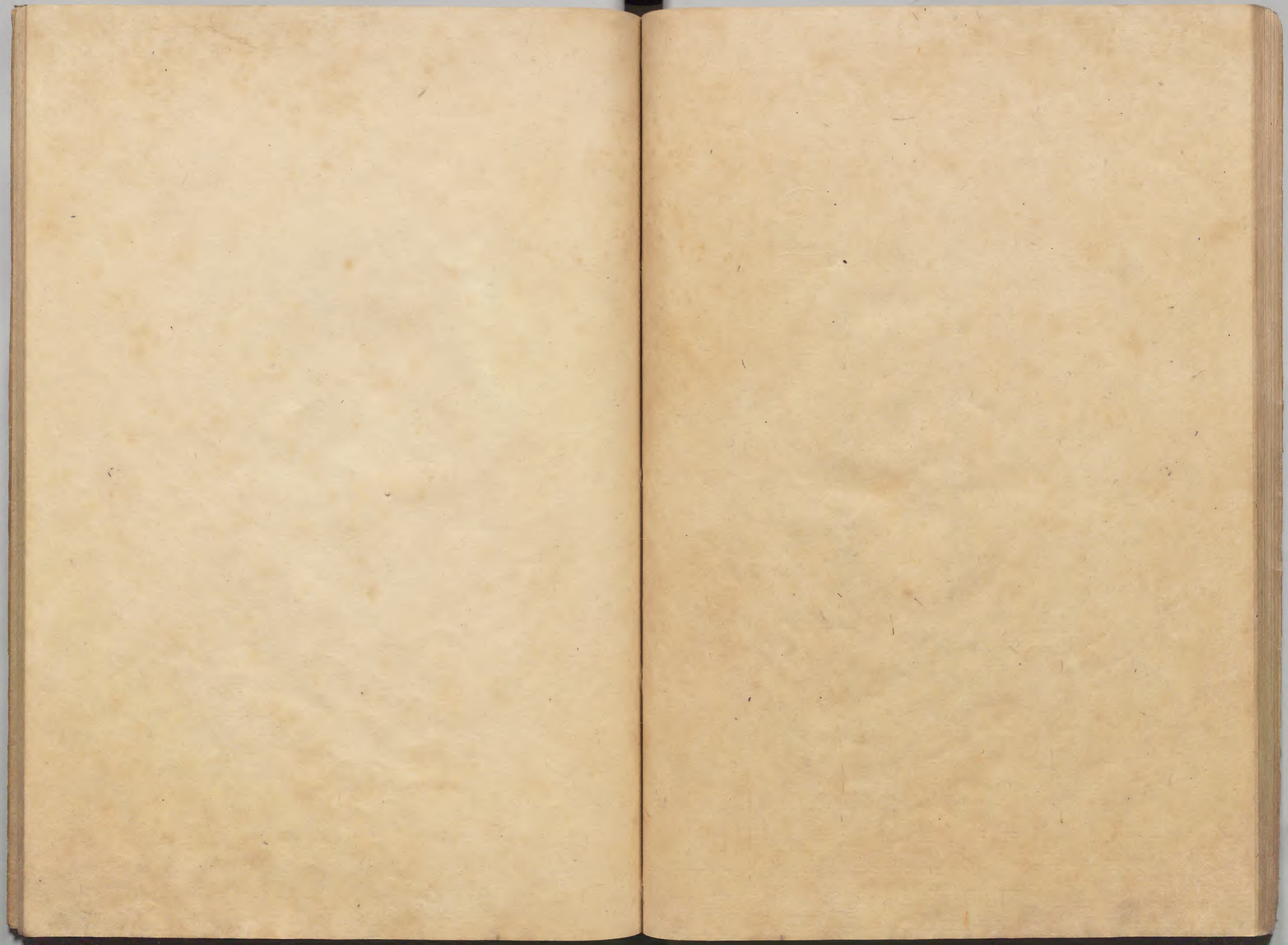
泰朝

小十郎 生田長秀

寛永五年

將軍家へはけえりてり

家紋 鶴丸



田口

● 吉利

伊豆守

吉壁右衛門大守

小條氏政作義重と合戦の時

安率をいさむ下野の國攝務乃

城と攻削 吉利 義重と 法名道玄

右勝うりょう

玄番げんぱん元のぞ

父右利うりょうといかかくく右壁うりょう氏うりょうつつふ

法右良ほうりょう帰き

右次うりょう

七右衛門しちゑもん常じょう州しゅう右壁うりょう那な生せい

右うりょうめめハハ右壁うりょう道みち云い云い右うりょう久く

右うりょう及及びりりて

右法うりょう院いん殿でん右うりょう久く

寛永かんえい六年六年

将軍しょうぐん家け右うりょう久く

幕まくら級きゅう巴は

越えつ後ごのの長なが尾お孫まご信のぶ関せき東とう右うりょう久く

右うりょう久く右うりょう壁かべ右うりょう久く

とませ小山家けを次りが幕紋もんを召えと
うらぶらくら友とといいあらうらん
事といふあれりらりて幕乃
とう一幅馬あらうひらちり

重田しげの

守國もりくに

岡坊おかぼう 生國なまくに 仁濃にのう

芦田あしだ 下野しもとの 守もり 右みぎ 大出おほいで

つみ

天正十年

東照大権現とうしょうだいこんげん 甲州こうしゅう 新府しんぷ 御ご 進後しんご の

別荘大失見澤乃山小屋
義之にとひく歌兵東西より
かこむの地新府の通流
御より守國山中乃間乃と
使しゆ事三交たり終し歌と
相殺と討死と内一軍三宗あり

守秀

庄在東の尉 生國同安

芦田修理大失みり
いつふ右東の太史滅元
守秀舊切あり
大権規りり
元和三年二月十八日七十一歳
死

守光

物之丞 生國信濃

戸田俊理大吏あひだのぶのりをいよ右太夫大吏
つとみ甲州新府御陣ふしゅうしんぷしんり
先守秀とたをいよ忠心を抽ひきげ
わらうがゆへりり免さねと

大権規おほごんぎつとみをいよ
文七五年関原陣ぶんしちごねんかんげんり位ぐゐをいよ
文和二年六月十九日死と時じきり
六十七歳

守久もりひさ

長共清尉 生国同前

右徳院教みぎとくゐんいよをいよ
大坂あまの御陣おほさかあまのしんり位ぐゐをいよ
をいよ

將軍家しやうぐんいよをいよ

守儀もりぎ

左近 生国同前

菅田隆理大支^{あし}を^もり^りび^いに^だの^あ大^い支^し
り^いつ^いふ^だ先^い守^い秀^いと^いあ^いり^いて

大^い権^い現^いし^いは^いは^い久^いし^いは^いり^いつ^い

慶^い長^い又^い年^い関^い原^い陣^いし^い佐^い佐^い久^い

の^いら

名^い法^い院^い殿^いし^いは^い久^いを^いえ^いま^いつ^い

大^い坂^い又^い交^いの^い御^い陣^いし^い佐^い佐^い久^い

守^い定^い

他^い共^い未^い尉^い 生^い西^い回^い家^い
将^い軍^い家^いし^いは^い久^いを^いえ^いま^いつ^い

守^い真^い

江^い外^い 生^い國^い回^い家^い

名^い法^い院^い殿^いし^いは^い久^いを^いえ^いま^いつ^い

大^い坂^い又^い交^いの^い御^い陣^いし^い佐^い佐^い久^い

寛^い永^い六^い年^い又^い月^い又^い日^い死^いと^い時^い

あ^い千^い六^い歳^い

守忠 もりただ

江外 えがい

生國上姫 なまくにの上ひめ

將軍家よりつとめとてくまのり

家紋

丸の内井桁 まるのいけい

●
正時

稲田

森屋

生田尾張

神左織田信長コノエノシロ之叔父信長コノエノシロ者

曰秀頼いであよりは信長

長子也
享長十二年六月八日六十歳

一ノ系也

正勝 まさかつ

嘉永 生國回参

秀頼 ひでより 一ツ子

元和元年大坂落城の役八月廿日

絶つれ

東照大権現より神湯とそ乃ち

台法院殿

將軍家より一ツ子とそ乃ち

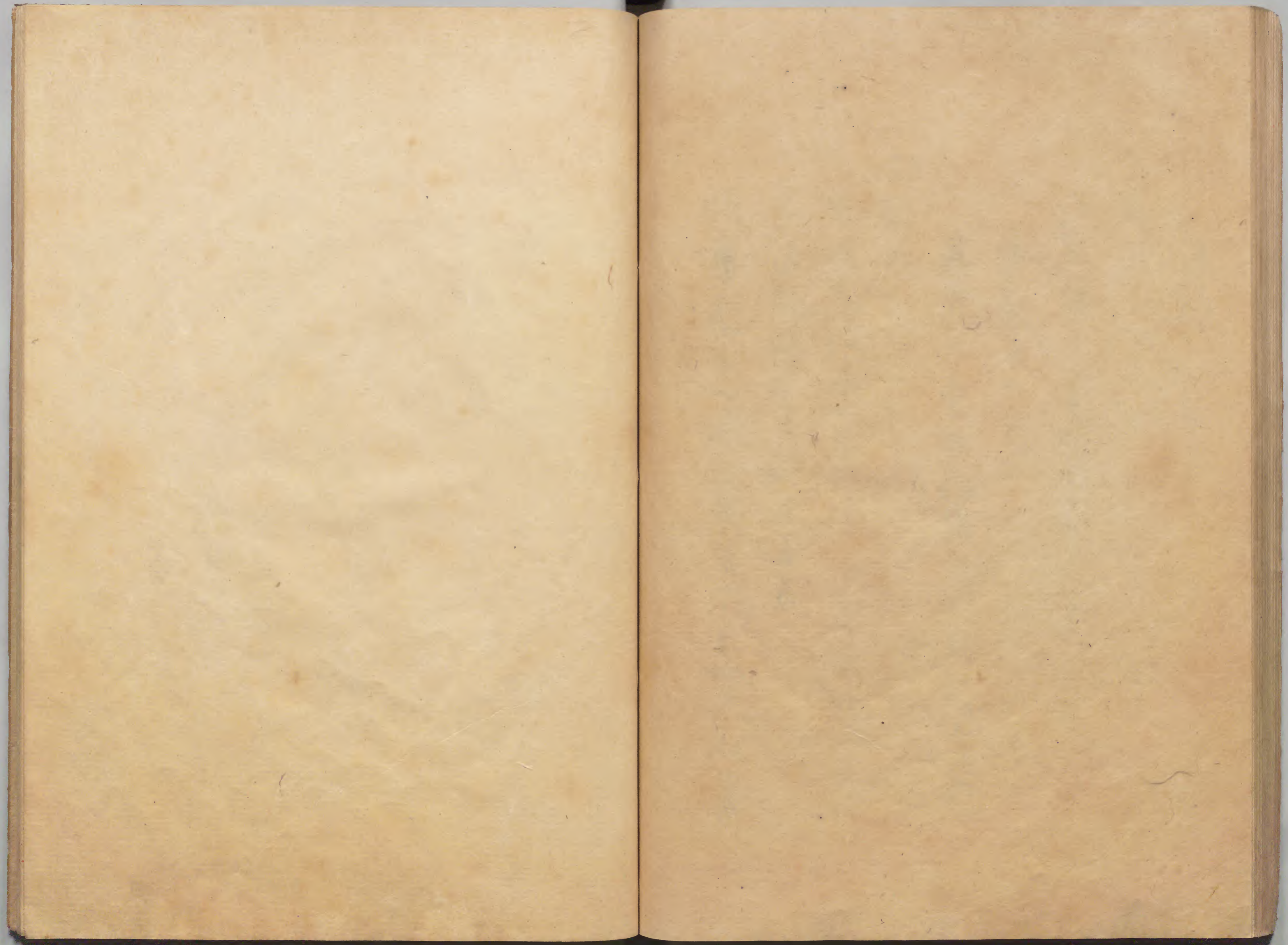
正信 まさのぶ

嘉永 生國山城 まごころ

寛永十一子

將軍家より一ツ子とそ乃ち

家紋 月兔 つきうさぎ



松田まつだ

友政ともまさ

新共清尉あらたにきよじゆう 生國三河なまくにのくに

東照大権現とうしょうだいこんげん 一法久いつぽうく 寺之てら 了りやう

友政ともまさ

童子わらわ 全法師ぜんぽうし 新共清尉あらたにきよじゆう 生國なまくに 日ひ 祐すけ

少年少年より

大権現大権現よりいふ事なり

大権現の御姫御姫若生若生強強者者秀行秀行

嫁嫁しぬまふとき 約命約命いりて

若政若政御姫御姫若若くあつていふ事なり

秀行秀行し属属しと秀行秀行逝去逝去の夜夜さび

浅野浅野但但守長守長成成く嫁嫁しぬまふ

若政若政亦亦御姫御姫若若くつふ事なり

廣廣治治くして死死し七十七十歳歳 法名法名若西若西

重政重政

九共九共湯湯射射

生國生國山城山城

少年少年のとき下野下野守忠守忠若若く

若若く

若政若政御御姫姫若若く子子と人人実実ハ之之林林又又兼兼

政政之之子子若若く政政之之刺刺殺殺して作作店店

水水号号以以

大権現大権現の若若くも来地来地と成成り

城列字作り一語
政之艾竹唐城列一筆三列
を毛むき

大控規一法久くくまの

慶長五年関原陣せきがらの

八月朔日伏見松丸ふしみのまつまると

四十九案一法名西谷さいや家紋九門三枚

寛永五年十一月十五日重政しげまさウ

名述院教と孫まご徳少

● 忠重

秋田

加古清尉

生國近江

法名浄源

涉井下野古りしはふ

忠重

加古末尉

生國同前

忠次

浅井下野守しげふ
元龜三冬下野守元龜卒して後
信人のり七十八歳めに
死し 法石淨林

九郎兵衛尉

牛國同家

秀次ひで 秀次ひで 秀次ひで
て後大久保石見い当ありまにあり

そのらひく

東照大権現

名徳院殿

將軍家のりにありまにあり

六十六歳めにあり

直次

六之助 生玉日前

寛永十年七月

● 忠久

持田

左馬助

生國義秀

武川源三松則

七十二歳少く死す

法名道隆

忠者ちゆうしや

右うまのる助 生國同前

と秋没落あきぼつらくの枝えだ菱あし沼ぬま小大こおほ膝ひざつ子

冬七七ふゆしちしち年小大膝死こおほひざして枝えだや

いづこいづこれ

東照大権現とうしょうおほみくろと福ふく一いつとそそり川がわと

愚おろの御城ごじやう番ばんと信しんと心こころそのら

名徳院なとくゐん教きやうり信しんと心こころそのら

六十むそ日ひ歳さい少すくと死しと 法名ほふな若わか若わか河が

忠重ちゆうしゆう

又また信しんの 生國同前

寛永かんえい十年

將軍家しやうぐんけり信しんと心こころそのら

同十七年どうしちしちねんと信しんと心こころそのら

伊賀いげの番ばんと信しんと心こころそのら

家紋

丸ま菱ま

久いさ後う

指さし田ど

新あらた大おほ昂おほ 生なま玉たま三さん河が
廣ひろ忠ちゆうつつ一いつ一いつ子こ一いつ一いつ子こ

久いさ次じ

源げん長ちやう清せい尉ゑい 生なま玉たま三さん河が

少子より

東照大権現より此の事なり

元和三年の事又日七十の歳にて

死す 法名道西

延久

源右衛門尉 生國同安

寛永六年十二月十日

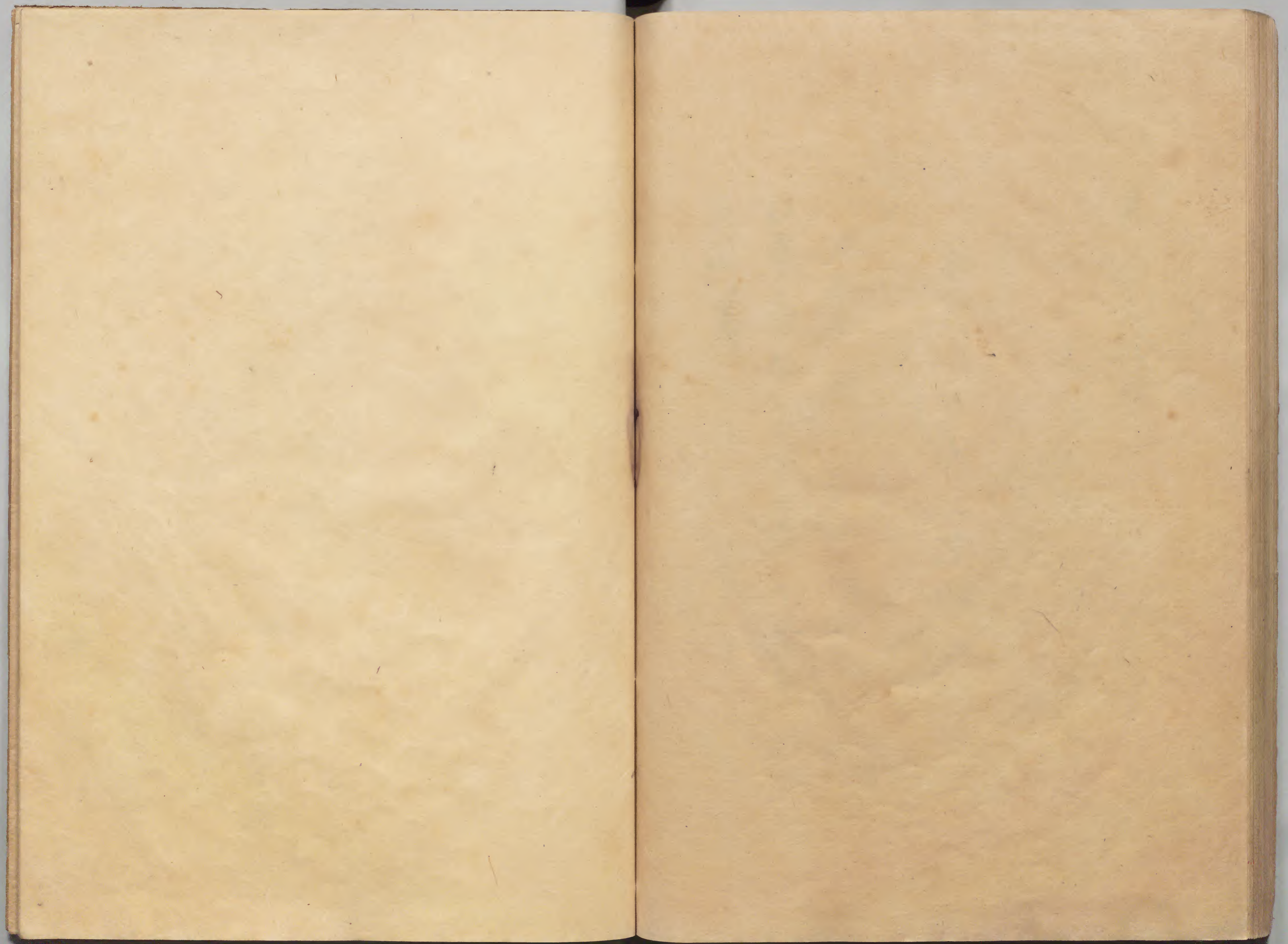
名法院殿より此の事なり

同八年正月

為軍家より此の事なり

家紋

丸内三葉柏



持定こゝろ此 ち力をあててこれと
賞しとあ給代こゝろいほふとあ
を信秀をいへつふ

孝長六年

東照大権現関原沖田陣の及忠
軍切とすり一 此一 此一
その戸所系へこの作あ致し
より江州大津とて祀て存
為りてすつ 八十歳とて花と

忠次

三郎右衛門尉 生國山城

二十九歳乃水とすこたふが速治とす

大権現よりいへるこゝろいへる

孝長十九年大坂陣此は信長

所水心

望多 大坂再陣 又月六日 道の寺
必分しとて初て我死に百十二歳

忠一

半若清射 生玉回安

十三歳少くして右次が家督とす

城列りて居り

大権現と称せしむる

名徳院殿

為軍家と稱せしむる

三十日歳くして死す

忠虎

半若清射 生玉回安

十三歳少くして

將軍家と稱せしむる

家紋

丸内横二引

